

【令和5年度 全国学力・学習状況調査 分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立上田上小学校

調査目的◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

【結果について】～我が校の強みと弱み、指導の充実に向けて～

国語科、算数科、児童質問紙で調査が行われました。

*本校の傾向を見るものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

【国語】

問題の傾向

- ・物語文は無く、複数の資料から読み取る問題や、他者とのやりとりが書かれた問題文が出題されていた。
- ・総合等で体験、学習した内容と類似した内容が多く、本校の子ども達には共感しやすい資料だった。
- ・「あとの条件に合わせて」書きましよう、という条件を満たして記述する問題が多く出題されている。

結果分析

- 質問用紙から、「国語は大切、将来役に立つ」と考えている児童は100%であった。
- 質問用紙から、「全ての書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した。」と回答した児童が100%であったことから、書くことについては、全国や滋賀県に比べ2倍の正答率だった。
- 「情報の扱い～」以外は、全国や県の正答率よりわずかに上回っている。
- △4択問題の選択間違いが精査できない児童がいた。
- △書くことについては全国的に正答率が低い。

指導の充実に向けて

- ・「書くこと」が全国的に正答率が低い。長文をまとめて書く力をつけるために、作文や日記、説明文を日常的に取り組んでいく。書く活動では、「条件」に基づいて書くようにすると、力がつくのではないか。
(例、「何文字以内」「この内容で」「自分の考えを必ず書く」「今後こうしたいという思いを入れる」等)
- ・読書や新聞を読む機会が少ない。文に触れる機会を意識して増やすようにする。
- ・新聞や資料等を読んで、理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる学習活動を取り入れたい。
- ・話し合い(学級会等)活動や、資料をまとめて発表する経験をこれからも様々な教科で行っていく。

【算数】

問題の傾向

- ・単なる計算問題は無く、問題文をよく読み、読み取れないと答えられない問題であった。
- ・問題の解き方や、人の考え方を理解して答える問題が目立った。
- ・求め方や理由を、順をおって文字と数字で書いて答える問題が4問出題されていた。
- ・4, 5年生の学習内容がほとんどだった。

結果分析

- 質問用紙から、「算数は大切、将来役に立つ」と考えている児童は100%であった。
- 図形以外は、本校は70%程度の正答率であった。県や全国の正答率よりも上回っている。
- △図形に関わる問題が全国的に正答率が低い。本校も44.4%で低い正答率だった。
- △記述、割合、図形の正答率が低い。

指導の充実に向けて

- ・「読み解く力」がついていないと解けない。教科を超えて、文や資料を読み正しく理解する機会を増やす。
- ・順序立てて考える経験が必要。考えをノートに文で書く活動や、人に説明をする機会を授業で増やす。
- ・図形の学習は、想像することが難しい。視覚支援をする様にし、授業で使った視覚教材を積極的に校内に掲示する。
- ・日常の現象から文章問題にされていることが多かった。計算問題に取り組むだけでなく、文章問題や、日常に即した問題に接する機会を増やす。

【児童質問紙】から

- 国語や算数、英語の学習は大切だと感じており、学習に対して意欲が前向きである。
- 生活習慣は整っており、家庭基盤があるといえる。
- 友人関係に満足しており、学校での人間関係や教師との関係は良好とみられる。
- 学級会や授業での話し合い活動が、昨年度強化したこともあり、子ども達に意識づけされている。
- △日々の家庭学習や、家庭での読書時間が少ない。
- △人の役に立つ人になりたいと考えているが、具体的に将来の夢や目標を持っていない子もいる。
- △良好な人間関係と、安心できる環境であるものの、自分に自信が無い様子も見受けられる。自分で考え行動する経験や、自分の責任を果たし、大きな事を成し遂げる経験をして自信をつけていく。
- △授業でのICTの活用について、将来役に立つと考えている子が多く、今後授業等での積極的な活用が期待される。